

100年前のパナマ（上）

甲 斐 紀 武

2004年は日本とパナマが国交を樹立して100年に当たる。パナマはその前の1903年にコロンビアから独立している。パナマ運河は1904年から米国による工事が始まり、1914年に完成している。

筆者は1913年に、即ち、翌年の運河の完成を見越して書かれ出版された米国人による書物を読む機会があった。この書物はバルボアによる1513年9月25日の「南の海の発見」から1913年までの400年を運河探求の歴史として詳細に分析、著述しており現在では珍しく稀れな貴重な歴史の証人となっている。この本はフランス人による運河建設の努力、米国

による運河の完成を詳細に述べているが、同時に独立以降1903年からの10年間のパナマ共和国の有様をあらゆる角度から記述しており、まさに100年前のパナマを知る手がかりを与えてくれる重要な本である。読んで見るとパナマがこの100年の間で如何に大きな発展を遂げたかが良く分かると共に、今日もなお変わっていない面もある。とにかく100年後の現在のパナマと比較すれば興味ある多くの事実が判明する。以下に同書籍をベースに「Panamá Viejo antes 1903」を分析し、紹介してみよう。パナマ市だけでなく、パナマ全体を知る人や中南米を深く識る人には興味ある記述となることを期待している。

〔目 次〕

1. パナマ内外情勢の概観
2. 米国のパナマ政策
3. パナマ国旗
4. パナマの国土
5. 政府機関
6. 国家収入
7. 通貨
8. インフラの改善
9. 公的教育制度
10. 豊富な資源：その一、Espiritú Santoが国花（以下次号掲載）
11. 豊富な資源：その二、世界第二のパナマ生産国
12. パナマ人とは
13. 先住民
14. Chiriquí州の古代文明
15. 100年前のパナマ案内（観光、海水浴、パナマ帽、宝くじ、国家博覧会の開催）

1. パナマ内外情勢の概観

100年前のパナマにはそれ以前のパナマと比較して際立った違いが見られる。独立して10年しか経たないのに、パナマは進歩と繁栄に向かって素晴らしい歩みを示している。権力欲が支配し、不評な政府を倒そうとする革命時代の不安定なパナマは最早存在しない。新しい世代も台頭している。今後のパナマの使命は平和と友好にある。戦争とパナマは永久に縁がないものになったからである。かくしてパナマのモットーは「Pro Mundo Beneficio」、即ち、「世界の利益のために」になったのである。

17世紀のドレイクとかモルガンといった海賊の跳梁による略奪以降のパナマの歴史は数知れない革命、陰謀、反陰謀、スペインによる重税措置と幾たびかの独立への動きの歴史であった。ドレイクの墓はカリブ海側のPorto Bello湾の入り口にあると伝えられるが、モルガンと並んでこれらの海賊がパナマやカリブ海諸国に与えた損害は莫大なものである。

20世紀初頭のパナマには一般の中南米諸国と同様に自由(Liberal)と保守(Conservative)の二つの政党が存在する。これら二つの政党は宗主国コロンビアが認める範囲の自治を巡って常に争う関係にあった。1912年までは憲法による選挙は行われず、選挙で勝利を得るには詐欺や力の誇示が必要であった。

1900年から1901年にはコロンビア国内の騒

ぎがパナマにも波及した後、1903年11月3日にパナマはコロンビアから無血革命で独立を果たし、共和国となり、同時にパナマ運河の実現を確実なものとした。パナマの独立が遅ければ、それだけニカラグアに運河が建設される可能性があった訳である。この独立運動はパナマ鉄道関係者が中心となったと或る文献に書かれている。米国がこの革命で果たした役割については賛否両論がある。米国政府は革命の実現を助けるために独立宣言が行われる前後にジャマイカから軍艦をコロンの派遣し、コロンビア政府の軍隊を阻止したとも伝えられる。米国はパナマが独立して3日後の11月6日には独立を承認し、同じく11月18日にはワシントンで運河条約が締結されている(やや奇怪であるがフランス人であり、レセップスの信奉者たるヴェヌウ・バリラがパナマ政府の特命全権公使として条約に署名した)。このあたりの一連の動きはパナマ、米国の威信をかけた息詰まるような状況であった。

2. 米国のパナマ政策

1904年から1912年までは国家建設の時代と呼ばれる。嘗てコロンビアがパナマに対して与えた好ましくない影響の結果、パナマは100年も発展が遅れたといわれる。独立前後にパナマ軍司令官のクーデター未遂事件が起こり、1904年末に軍隊は解体された。米国によって平和が保障されているので、パナマは如何なる軍隊も必要としないのである。

「米国政府はパナマに一種の警備者的な役割を行使することになった、米国はパナマに

対する外部からの侵略を阻止し、必要ならば選挙の監視も行う、しかし、米国はパナマを併合する意図はない」

上記は当時の米国政府の態度の表明であると言われる。タフト前大統領は1904年12月、米国のパナマ政策について「米国は1セントと雖もパナマの国庫から金を取らないし、1エーカーの土地も欲しない、しかし3億ドルと見積られる運河建設費用を考えれば両国間で完全かつ緊密な理解が維持されることが最も肝要なことである」とパナマ市のホテルのバルコニーから演説している。この態度は今後とも守られるであろう。

3. パナマの国旗

今日のパナマ共和国国旗も独立時に決定された。白地に対照的に配置されている赤と青の星は自由、保守両党を表している。同じく対照的に赤と青の長方形が見られる。パナマ初代大統領 Amador 氏の姪である María Emilia de la Ossa のデザインである。この旗は最初は11月4日に Amador 氏の家のバルコニーに吊るされていたと伝えられる。バランスが取れた親しみ易い国旗である。

4. パナマの国土

今まで正確な調査が行われたことはないが、パナマの国土は3万2,000平方マイルの広さと推計される。また、コスタリカとコロンビアとの国境はまだ確定されていない。コスタリカとの国境問題は前のフランス大統領の Loubet 氏の仲裁に委ねられたが、Loubet 氏

の仲裁結果は大部分パナマの主張を支持したものであったので、コスタリカはそれを拒否し現在は他の仲裁機関に委ねられている。コロンビアとの間では米国の仲介により1912年に三国間条約がまとめられたが、コロンビアが拒否したため交渉が継続されている。

パナマ共和国はテキサス州の8分の1の規模で、10個のモンテネグロ地域が入る大きさである。面積は3万2,000平方マイルで、両洋の海岸線は合計で1,245マイル、国の最大の東西の幅は430マイルである。国土は概ね東西を走る分水嶺 (cordillera, backbone) から派生する丘陵と溪谷によって細かく分かれている。そしてこれらの丘陵と溪谷は可なりの高さを持つ峰となったり、クレブラのような低い場所へと変化する。この事情は基本的に2005年の今日でも変わらない。

チリキ火山は11,500フィートで国内最高峰である。この火山は15万5000年前に死火山となっていると言われる。大西洋と太平洋岸には多くの島と入り江が見られる。島の数合計で1,700で、太平洋側のコイバ島が最大である。パナマ湾は直線で100マイルの湾口を有する。カリブ海には150の河川が、また太平洋には300の河川が注いでいる。最大なのはダリエン地方の Tuyra 川で、次いでバリタ湾に注ぐ Santa María、Chagres 川の順となる。

パナマは Bocas del Toro, Chiriquí, Coclé, Colón, Los Santos, Panamá, Veraguas の7つの州からなっている。パナマ州は最大の広さであるが、先住民からは Darién と呼ぶべ

きとの要求が出されている（筆者注：当時の地図では今日のDarién地方は全部パナマ州に編入されていたようだ）。

パナマ市は州都であると共に首都であり、海賊モルガンによりPanamá Viejoが破壊されて後1673年1月21日にそこから5マイル西の現在の場所に再建された。1904年に米国人が来た時は人口は2万人を越す程度であったが、1911年のパナマ政府による調査では37,505人で、1913年の推計では約5万人である。10年未満で2倍以上の増加である。米国による運河建設が進捗するにつれて、その工事拠点であるパナマ市も発展の道を歩んでいる。

第二の町コロンは1904年の時点では4,000人の人口を持つ沼の上の貧しい村に過ぎなかったが、大西洋側の運河建設の拠点となり10年間で600%の増加を記録し、今や繁栄した秩序の良い人口2万5,000人以上の町となっている。パナマ市はその規模に応じた便利さを享受している。1913年から開始されたタクシーや市電のサービスはその代表的なものである。コロンでは現在市電を建設中である。パナマ市もコロンも運河の出口付近に位置しているので、将来は明るい。

Chiriquí州のダヴィドは第三の町である。米国のUnited Fruit Companyのバナナ関連事業で建設されたBocas del Toroは第四の町である。

5. 政府機関

この本が出版されつつある時の大統領はLiberalの指導者であるDr. Belisario Porras氏で1912年10月1日に就任した。彼は根っからの進歩主義者であり、パナマで最初に憲法により選ばれた大統領である。彼は選挙期間中に幾つかの改革を約束し、その多くを実現した。彼が政権に就いた時は国庫は空っぽであり、地方銀行からの借金に頼っていた。就任以来半年足らずで全ての債務は返済され、国庫には35万ドルの黒字が記録された。これは1913年に条約によって決められた米国による最初の年金支払い額25万ドルを含まない数字である。

共和国制度を規定する憲法は1904年2月に発効した。大統領は投票によって4年の任期で選出され、連続再選は出来ない。1904年7月に選挙が実施され、10月に大統領が就任した。給料は年額9,000ドルであるが、住居手当などがついた。大統領は閣僚を含め全ての高級官僚、最高裁判所判事、外交使節、各州知事を任命する。閣僚は財政、外交、法務、教育、公共土木担当の5名である。3名の副大統領がおり、大統領が死亡した場合にはそのうちの第一人者、Primer Designadoによって職務が遂行される。

立法機関としては2年の任期で選ばれる国民議会があり、司法機関としては最高裁判所、巡回裁判所、地区裁判所などが存在する。最高裁判所はパナマ市に置かれている。

6. 国家収入

国家財政は極めて良好である。米国からの運河地帯への支払いの600万ドルはニューヨ

ークの金融機関に預けられ、年率4.5%の利益を齎している。この利益である27万2,000ドルは次の項目と合わせて共和国の固定年収となっている。

運河地帯賃貸料(年金): 25万ドル、為替平衡資金の利益: 9,000ドル、国立銀行のファンドからの利益: 3万3,750ドル、市場とドックの賃貸料: 4万ドル、コロンにおける土地賃貸: 2万6,000ドル、National Navigation Company 債券の利息: 2,450ドル。合計で1913年には63万3,200ドルである。これに関税収入と領事手数料の418万9,986ドルと所得税の50万ドルが加わる。1913年の支出は384万1,214ドルである。このようにパナマには対外債務は存在せず、今後もその可能性はないだろう。輸入税は例外を除いて15%である。全ての酒類、タバコ、コーヒーなどは特別関税の対象である。アヘンの輸入は禁止されている。外国の特許や商標は公共土木省(Fomento)に登録され、必要な費用を支払うことになる。

7. 通貨

通貨単位はバルボアで、金1ドルの固定価値を有する。条約によってパナマは2対1の割合で硬貨の鋳造を行っている。銀貨としては50、25、10、5セントを鋳造している。ニッケル製コインには2.5セント、0.5セントがある。それぞれ peso、medio peso、dos reales、real、medio、cuartillo と呼ばれる。1904年にはコロンビアの銀貨が殆ど唯一の通貨であったが、新しい硬貨の導入と共にコロンビアの銀貨は姿を消していった。パナマの経済発展は巨額な量の米国通貨の助けなしでは困難

であった。金の裏づけのある米ドルは大型取引に使われ、米国の補助硬貨はパナマの硬貨と並んで国内で流通した。国民議会は1913年に紙幣の発行権限を持つ国立銀行の設立を認可したが、憲法の立場からの反対がなされている。

8. インフラの改善

1904年に162万5,000ドルがこの目的のために確保され、この時以来数百万ドルが使われている。

パナマが独立した時点では国内には道路や橋梁というに名に値するものはなかった。これ以来道路、橋梁の建設が行われているが、無責任な建設会社が原因で効果が上がらなかった。また同時に確定的な計画も不足していた。そこでこれらの建設を統一的に行うようになった。国内最大の橋梁は1907年に Coclé 州と Los Santos 州の境目の Santa María 川に架けられた。また1904年以来主要な町には教育施設を含む市庁舎が建設された。1908年にはパナマ市に国立劇場が100万ドルの経費で建設された。市庁舎は1910年に建設された。ゆったりとした空間を持つ市場は現在建設中である。また100万ドルの規模での屠殺場と冷蔵施設が計画されている。コロンの市庁舎は1906年に完成した。

国の発展は内陸地方から海岸までの交通手段がないことによって大いに妨げられてきた。内陸の産品は小型の馬、二輪車などで港に齎されたが、それが通過する道路は雨季には通行出来なかった。次いでこの港から蒸気

船や小型船舶によって消費地に運ばれた。太平洋沿岸では National Navigation Company の船舶が途中の港に立ち寄りながら Chiriquí 州のペドレガルまで運航している。東方向ではサン・ミゲル湾まで運航している。パナマと Chiriquí の間では Panama Steamship Company が競合している。大西洋側では小型船舶やランチが輸送用に使われている。

国内の鉄道は総延長で100マイル以下であり、パナマ鉄道本線と支線、それに約40マイルの United Fruit Company の鉄道がある。これは Bocas del Toro 州のバナナの集荷、積み出し用である。1910年には政府の要請によりパナマからダヴィドまでの274マイルに鉄道を建設するための調査が行われ、国民議会でも関連の法案制定の努力がなされ一旦は議会通过したが、最終的には大統領の憲法上の理由による反対のために実現しなかった。現政府はこの計画を諦め、それに代わって太平洋岸の主要な港と内陸を結ぶ短距離の鉄道建設の調査を行っている。この他にドイツによる Darién 州や米国による Colón に鉄道を建設する計画があり、前者は放棄されたが、後者はまだ有効である。パナマの通信制度は政府管掌であり、通信線はパナマからダヴィドまで伸びている。

9. 公的教育制度

パナマの Free public school system は中南米でもユニークなものである。公立学校へ子供を通わせることは義務であり、許可なく欠席することは小額の科料の対象となる。男女別の授業が行われている。カリキュラムは

上級学校や専門学校に必要なように準備されている。絵画や女生徒の場合には針仕事も科目に入っている。英語は都市部の学校では毎日、地方では週に2回となっている。政府は同時に男子には工芸訓練学校を維持し、貧しい家庭の子供のためには音楽学校も運営している。この他にも多くの私立学校がある。専門学校は男性の生徒には無料で開かれている。しかし、同時に一家庭からは二人しか入学出来ない。校長は米国人である。学校に寄宿する生徒は100ドル相当の服装とシーツを与えられる。1913年5月1日の時点での全国の公立学校の数男子校が107、女子校が104、共学が165で、在籍生徒数は19,541名、教師は男性が189名、女性が419名である。国立音楽学校の水準は高く、多くの米国の子女もそこで音楽教育を受けている。

(かい・のりたけ 日本・パナマ友好協会会長代行・日本・チュニジア友好協会会長)



100年前のパナマ（下）

甲 斐 紀 武

〔目 次〕

- | | |
|---------------------|---|
| 1. パナマ内外情勢の概観（前号掲載） | 10. 豊富な資源：その一、Espiritú Santoが
国花（以下本号掲載） |
| 2. 米国のパナマ政策 | 11. 豊富な資源：その二、世界第二のパナマ
生産国 |
| 3. パナマ国旗 | 12. パナマ人とは |
| 4. パナマの国土 | 13. 先住民 |
| 5. 政府機関 | 14. Chiriquí州の古代文明 |
| 6. 国家収入 | 15. 100年前のパナマ案内（観光、海水浴、
パナマ帽、宝くじ、国家博覧会の開催） |
| 7. 通貨 | |
| 8. インフラの改善 | |
| 9. 公的教育制度 | |

10. 豊富な自然：その一、Espiritú Santo が国花

パナマは極めて多くの自然の恩恵を享受しているに拘わらず、その輸入は輸出を大幅に上回っている。これは内陸部の人々は殆ど自給自足であり、余り欲がなく現在ばかりを見ており、長い目で見て土地から富を引き出すとの意欲に乏しいからとも言われている。何事にも積極的な21世紀のパナマ人からは想像が出来ない。

運河委員会にかかる傾向に反してローカル市場で物資の調達を計画したが、当時は物価が急上昇し不可能であった。そこで物資配給所（commissary）を1904年にクリストバルに創設した。しかしこれに対しパナマの商人は大規模な政府直営の配給所の設置に反対し、米国政府に直訴した。米国政府は運河地域長官の名において、パナマ人商人の直営会社が運河地帯沿いに配給所を設立し、合理的な価格で物資を販売するのであれば運河庁は決定を撤回する旨答えている。ところが商人の委員会は商人が手がけるには余りにも大規

模な事業であるとして拒否した。パナマはまたとない機会を失ったのであり、この問題は以降もローカルな商業に刺さった棘になっている。

農業に関してはパナマの土地は十分に調査されていない。Chiriquí州には恐らく7万5千頭の家畜がいると推定されるが、同州の平原やVeraguas州はその10倍を養うことが出来る。Chiriquíで生きている家畜は一頭35ドルで取引される。家畜の天敵はダニであり、これは科学的に退治出来る。パナマの800万エーカー以上の土地は処女林で覆われ、マホガニーを始めとする硬質材からなっている。

金鉱の跡は国内の幾つかの地点で見られる。水晶鉱山もあるが、品位が低いのでファイジブルではない。マンガン鉱山は大西洋岸のNombre de Dios付近で嘗て開発されたことがある。石油の兆候はChiriquíとLos Santos州で発見されている。石炭の埋蔵はまだ確認されていない。運河の採掘工事で褐炭の情報が読み取れている。

動植物は幅広い範囲を覆っており、まだ研究の余地が残っている。蘭は繁茂しており、数百種類もある。Espiritú Santo (Holy Ghost Orchid、聖霊)、Semana Santa (聖週間)とLa Doncella de la Noche (夜の少女)の三つは特に賞せられている。Espiritú Santoは21世紀現在のパナマの国花である。花卉の奥には目や嘴までも忠実に再現したかのような鳩の形が見え、まさにヨルダン川で洗礼後のキリストの肩に止まった鳩、即ち聖霊の存在を見るような清楚な花である。

11. 豊富な自然：その二、世界第二のバナナ生産国

野生動物もジャガー、山猫、ピューマ、鹿、ウサギ、アルマジロ、野生の猪、猿、ナマケモノなどなど多彩である。鱈は主として海水河川に大量に棲む。蛇の種類も多様である。

鳥類も種類が多い。最も良く知られているのがオオムである。野生のアヒル、鳩、野生の七面鳥や多種類の渡り鳥である。運河地帯だけで800種類もあり、そのうちの300種類が分類されている。ケツアルはChiriquíに棲んでいる。これらの中で歌う鳥は150種類おり、新しい種の一つは運河庁長官の名前をとってゲーサルス (Goethals) と名づけられている。

パナマからの唯一最大の輸出品目はバナナである。Bocas del ToroのUnited Fruitからは毎年600万束のバナナが輸出される。ここは世界第二位のバナナ生産地帯であり、更に拡大しつつある。バナナはパナマの国土全体で生産され、栽培には格別の苦労はない。チャーグレス溪谷は一大バナナの産地であり、運河委員会経営のホテルや食堂に供給している。フリホーレス・バナナはその風味で知られている。バナナには幾つかの種類があるが、輸出されないので外国人はその殆どを知らない。その一つはmanzana (林檎) で、文字通り林檎の味がする。higoという種類はイチジクの味に近い。これは人間の中指位の大きさである。パイナップルはタボガ島では相当

大きく成長する。そこはパイナップルの楽園である。マンゴにも多くの種類があり、mango de calidad (「良質のマンゴ」とでも訳そうか) が知られている。オレンジ、ライム、レモン、グアヴァ、マラニョン、グレープフルーツ、パパイヤなどなどもある。椰子の種類も多い。

真珠の採取はパナマから45マイル東方に位置するパナマ湾の Islas Perlas (真珠諸島) で行われている。この事業は政府の認可を得て行われている。事実「南の海の発見者」であるバルボアは種々の大きさの真珠に言及しており、当時の幾つかのものは1,200ドルの価値があると評価されている。現地の潜水者が採取に当たっている。乾季には水温が下がるので、採取作業は専ら雨期になされる。中央部の Los Santos 州沿岸でも真珠の採取が行われている。

ゴム、ココア、トウモロコシ、インディゴ、タバコ、サトウキビなども栽培、生産されている。今は精製所は一つしかなく、樹液は主にラム酒などの原料であるが、パナマのサトウキビは多くのサッカリン分を含みしかも成長が早いので、将来は主なる輸出品目となるであろう。

パナマの自然は農家にとっては余りにも優しいといえる。例えばサトウキビは家の壁に使われ、椰子の葉は屋根を葺く材料である。近辺の木はトウモロコシや米を轆くのに使われる。カラバッシュの木は家事用の器具を作るのに便利である。欠けているのはコーヒー、砂糖、塩と蠟燭程度である。

12. パナマ人とは

パナマ人は征服者の子孫と後の時代の混血からなっている。黒人労働者が導入される前は出自によって四つに分類された。スペイン人、2代目以降の土着のスペイン人、ヨーロッパ人であるクレオール、先住民及び先住民と前3者の混血であるメスティソ(mestizos)である。黒人が来て後は、黒人とスペイン人(またはクレオール、メスティソ)の混血であるムラート(mulattos)と黒人と先住民の混血であるサンボ(zambos)が生まれた。更にフランスの運河建設時代には多くのフランス人がパナマ女性と結婚し、クレオール型の国民が誕生した。中国人と黒人やパナマ人との結婚もあり、蒙古系の特色を持った肌の色が茶色であるモレノ(moreno)も生まれている。このようにパナマは交通の要衝であった他に、鉄道、運河建設という世界的なプロジェクトがあったために多くの外国人が通過したり根を下ろしたりして、小型ながら多民族国家を成立させたのである。これはある意味でパナマの活力の源泉である。同じ地域の大国メキシコと較べると、メキシコはメスティソ大国でありこれが国民の7割を占め、先住民やクレオールの数は少ない。まして黒人は殆どいない。

1911年の調査ではパナマのメスティソは白人と比べ3対1、黒人とは2対1と数で圧倒している。黒人は主に運河建設のために来たが、主として海岸部の都市に住んでいる。他方Bocas del Toroの黒人はUnited Fruitがバナナ生産のために連れてきた。彼らはカリ

ブ海のアンチレス諸島から来たものである。

パナマには金持ちか貧困かの二つの階級しかない。メキシコなどに見られる中産階級は殆ど存在しない。農村地帯では人々は金が必要の時だけ働くことで生活が出来たのである。彼らは野心を持たず、悩むことは少なかった。家庭の家長はいか胸の白ワイシャツと黒のズボンで常に裸足であったが、時には縄を巻いた草履を履いていた。

それでも多くの古いカトリックの家庭には蝋燭を点す壁眼があり、不幸や病気から家庭を守る習慣であった。重要なカトリックの祭りには行列が町を練り歩いた。カーニヴァルや「Mardi Gras」は特に大規模に祝われた。

このような祭りの時には女性は pollera と呼ばれる衣装を着用する。ナショナルコスチューム的一种である。これは優雅にしかも体を自由に動かすように着用されるので、外国女性は着こなすことが出来ない。髪の毛は多種類の蝶々と飾りで覆われ、足元は明るい色の靴で飾られる。靴下は履かない。金の鎖と薄いスカーフが盛装の仕上げである。pollera はパナマの殆どの女性が所有する。一着が40から50ドルする。

富裕な家庭の子女はニューヨークやパリに留学した。こうして知識が広まるにつれて古くからの習慣は捨てられていった。かつては自分が好きになった女性の家の窓の下で黙って待ち、長時間頑張った後に女性の両親が男の子を家に迎え入れたが、かかる風習は既に過去のものとなった。

13. 先住民

パナマの先住民は四つの部族に属する。第一はGuaymies族で専らChiriquíやVeraguas州の山岳地帯に住んでいる。第二はCuna族で島嶼やカリブ海側に住んでいる。第三はDarién族でパナマ州東部の山岳地帯に住んでいる。第四はChocoes族でコロンビアとの国境や南東Dariénに住んでいる。1911年の人口調査は先住民を含んでいないが、36,178人と推計している。

1912年に発表された興味のある先住民に関する研究がある。それによるとCuna族は小人タイプで、頭が大きく、足が短く、胴体は通常の大人と変わらない。漁業を生業としている。Darién族は普通のプロローションであり、足が速く北米のインディアンと似ており、狩猟が主である。Cuna族は白人と協調的でその習慣の多くを取り入れているが、Darién族は反対に野性的である。

Cuna族とDarién族

Cuna族とDarién族の領域は長い間外部には閉ざされていた。最近までCuna族には外部の人間は夜になるまでには退去すべしとの法があったくらいである。これは彼らの婦人を守るためであると言われる。Cuna族はカリブ海沿岸の島嶼に住み野菜と魚を常食とし、肉類は稀にしか手に入らない。パナマがコロンビアから独立する以前はInanaquiñaと呼ばれる酋長が支配していたが、彼はボゴタへのミッションの途中で熱病のため死亡

し、甥の Inanaquiña が後を継いだ。しかし Inanaquiña がパナマの新政府をなかなか承認しないので、パナマ政府は Cuna の支配権を英語名を Charley Robinson という別の先住民に移した。部族の一部は Robinson を拒否したので今日では部族は分裂状態にある。Robinson は米国で数年過ごしたことがある。彼の支配地域の首都はディアブロ川河口の San José de Nargana に置かれた。1913年には女性の宣教師が数年かけて漸くこの土地に到来し、Robinson の影響の下でその活動は順調に進んだ。先住民も彼女を歓迎している。

Cuna 族では数を10以上数えられるのは珍しいが、先の宣教師の生徒が100まで数えた時、この生徒は村の驚異と言われた。この Cuna 支族には以前から男の子をパナマやコロロン、或いは外国にまで初等教育のため派遣する習慣があった。それは勿論勉学の後この土地に戻ってくることが前提であったが、幾人かは都市生活に慣れ、部族との縁を断っている。他方女の子はこの土地から離れることは認められていない。

国の発展に伴って先住民の領地を開放すべしとする要求が高まった。先住民はこれに反対したが、国民議会は先住民居住地の平和的開発を認める法律を1913年に通過させた。当時既に多くの商社がこの地域に進出したり、その準備中であつた。世界でも良質で注目されているココナッツ、亀の甲、バラタゴム、アイボリーナッツが商社の関心品目である。更に溪谷の河川は金の存在を示している。事実先住民が着用している腕輪、イヤリング、鼻輪などは金製である。

(2) Guaymies 族

この種族は一部文明に浴している。女性は内陸部の女性の簡素な衣服を真似ており、男性はシャツとズボンスタイルである。顔に化粧をする習慣は男女共に見られる。研究者によれば少女は愛くるしい顔をしており、暖かく、茶色のビロードの肌で、美しい眼を持っている、結婚適齢期になると毛髪は短く切れ、最初の子供が生まれるまでは長くは伸ばせない。少女時代は短い。即ち、12歳以前で母親になることが多いからである。他の部族では余り見られないが、Guaymies 族は一夫多妻である。

(3) Chocoes 族

研究者もこの種族については余り知らない。古文書にも殆ど書かれていない。或る研究者の25年の熱帯での経験でもこのように自然と共に生き、文明の悪を知らず、太陽を愛し、信頼出来る人々に出会ったことがない。身体的にもこの種族は立派で、健康的である。男子は細い足とエネルギッシュな顔を、女性は太って、茶目っ気がある。特に女性は通常の原始人の場合よりもより長く美貌と魅力を維持することが出来る。いつも殆ど裸で生活しているが、Cuna 族よりも健康的に見え、女性は地中海諸国の白人女性と較べることが出来る。この種族はまた装飾と刺青を好む。彼らは清潔で働き者である。乾季には作物の取り入れ、狩り、漁労、カヌーで過ごす。雨季の激しい雨の時は専ら家の中で籠を被って過ごしている。

14. Chiriquí 州の古代文明

古代には Chiriquí 州の大部分にマヤの一族である Dorasques 族が住んでおり、現在では完全に死滅しているがアステカ、マヤ、チブチャス文明と並べられる文明の跡を残している。1858年の後半にダヴィドから15マイルの地点の小さな村落で住民が偶然に金製の像を掘り出した。この近辺が調査された結果、合計5万ドルの価値がある金製の装飾品、壺が発掘された。この場所は古代種族の墓地(huacal)であり、更に数千もの墓(huacas)が見つけられた。装飾品は主に高い地位の人の墓から、壺は一般の墓からも見つけられた。観光客は壺などは自分で掘り出して持ち帰っていた。金製の装飾品は素晴らしい出来映えで、先住民が勝れた金細工師であることが判明した。最も好まれたデザインは蛙、亀、虎、アルマジロ、犬、鷹、蛇である。

壺は多色であり、素焼きか釉をかけている。模様は簡単な動物の輪郭から入り組んだ規則的な幾何学文様までである。1913年にはかかる金製の装飾品を埋蔵した墓が150マイル西の Los Santos 州でも発見されたと伝えられている。

Chiriquí 州産でコスタリカにも同じものがある cadena chata と呼ばれる装飾品は長い金の鎖で、パナマ人には人気が高い。米国人も熱心になって求めたので値段は上がり、贋物まで出回った。本物は現在40ドルだが、1904年にはその半分の値段であった。

piedras pintadas (panted stones) も Chiriquí で発見されており、古代先住民の手になるものと考えられている。この最大の見本はダヴィド郊外の平原に立っている。それは巨大な丸くなった石であり、その上に多様な象形文字が彫られ、着色されている。或る学者は「piedras pintadas の風化具合や壺や古代先住民が残した物から判断すると、それらは少なくとも1千年以上も前の時代に属する」と述べている。

15. 100年前のパナマ案内

観光

近代化によって過去の多くの記念碑が消えたが、それでもなお過去は豊富に残っている。先ずパナマ市旧市街の海岸には総工費800万ドルと推定される海賊横行時代以降に建設された要塞式の壁が見られる。市内の中心にあるカトリック寺院は1673年に建設が始まり、1760年に完成した。そこにはサンフランシスコ教会と破壊された僧院の跡もある。サン・フェリッペ・ネリ教会は1688年に建設され市内で最古である。Santo Domingo 教会の跡も残っている。

市外では先ず Old Panama、タボガ島、真珠採取には Pearl Islands が良い。パナマ市から西に20キロで Chorrera に着く。ここには綺麗な滝があり、鰐の生息地である。チャーグレスの河口には Fort San Lorenzo の遺跡がある。かつての貿易港 Porto Bello も訪れるに値する。

Coclé州のNataにある教会は共和国最古であるが、時間がないとそこまでは行けない。コロンには鉄道や自動車で行き来出来る。パナマ市からLas Sabanas經由Río Juan Díazまでは車で快適なドライブが可能であり、そこには金持ちの別荘がある。

海水浴

Porto Bello湾は住民にとっても、遠くから月明かり水浴を求めて来る人にとっても快適な場所である。Toro Point付近には砂浜が広がっている。コロンのワシントンホテルのプールは良く手入れがされている。

太平洋側ではタボガ島とPeña Prietaが適地である。後者までは市電が走っている。

パナマ帽

何故この帽子をパナマ帽と呼ぶのかは誰も分からない。恐らくこの帽子が流行していた時に船でパナマに立ち寄った船員などがそういう名でひろめたのであろう。2、3年前にパナマ政府はパナマ市郊外のアライハンに帽子学校を設立したが上手く行かなかった。パナマ帽というが本当はエクアドルがその故郷である。しかし最近ではコロンビアなどの国がやや品質が劣る帽子の主要な生産国となっている。最も値段が高いパナマ帽はそれを製造しているエクアドルの小さな町の名前を取ってMontecristiと呼ばれる。ローカルマーケットでは一つが35から50ドルで、米国では75から100ドルで売られている。欧米の旅行者は日頃は安いイミテーションに慣れているので、Montecristiの値段を聞いて驚く

ばかりである。彼らはこの帽子を作るには数人がかりで数か月の仕事が必要であることを知らない。この仕事は手を用いる出来高払いである。パナマでは安い帽子が製造され、観光客の増加に伴ってこの事業は活気を呈している。

宝くじ

宝くじは長い間行われていたが、1904年末に競争相手であったルーレットが禁止されてからは一層盛んになった。運河の従業員は最も良い顧客である。抽選は毎週日曜日の午前中に行われ、7,500ドル、15,000ドルが大賞である。余剰金は教育、慈善事業に使われている。

国家博覧会の開催

1913年9月25日はバルボアによる太平洋発見の400周年に当たる。これを記念してパナマは1914年11月1日から6か月間博覧会を開く予定である。これには米国、スペイン、キューバ、西インド諸島が招かれている。暫定予算として国民議会は15万ドルを可決した。会場はパナマ市東の丘陵に位置し政府がこの目的のために土地を購入した。米国とスペインには一定の区画が贈与され、そこに建物を建設する予定である。会場からはパナマ湾、アンコンの丘、パナマ市や郊外が見渡せる。1913年9月13日は祝日に指定され、会場建設工事が正式に着手された。式には閣僚、外交団も参加し、管理棟の礎石の設置はポーラス大統領によって行われ、全体計画も説明された。船でサンフランシスコに向かう乗客は運

河とこの博覧会会場を同時に眺めることが出来る。また大統領は運河の太平洋側の入口にバルボアの記念碑の建設計画を促進している。既にスペインのアルホンソ国王は1万ドルを寄贈し、パナマも同様である。基金は7万5,000から10万ドルまでが予定されている。

(かい・のりたけ 日本・パナマ友好協会会長代行・
日本・チュニジア友好協会会長)



なかかるまい
〔中軽米重男新ベレン総領事の略歴〕

昭和43年3月 防衛大学校卒業
〃月 陸上自衛隊入隊
53年12月 外務事務官 在イスタンブール日本国総領事館領事
57年5月 防衛庁
58年9月 外務事務官 大臣官房在外公館課在外公館警備室課長補佐
63年5月 大臣官房領事移住部領事第一課 課長補佐
平成元年3月 在ドイツ連邦共和国日本国大使館 一等書記官兼領事
(3年4月国名表記が「ドイツ」となる)
5年4月 在ジンバブエ日本国大使館 一等書記官
7年2月 大臣官房在外公館課在外公館警備室 課長補佐
3月 大臣官房領事移住部邦人保護課(海外安全相談センター室長)
10年9月 在オランダ日本国大使館 一等書記官兼領事
12年10月 交流協会主任(台北)
15年5月 大臣官房総務課警備対策室長
17年7月 在ベレン日本国総領事館総領事